

令和5年度（2023年度） 鴻池小学校 第2回学校運営協議会 議事録

1. 日 時 令和5年 12月13日（水）18：00～19：35

2. 場 所 鴻池小学校 視聴覚室

3. 参加者 協議会委員 : 阪田会長・寺井副会長・北田委員  
堤委員・小西委員・濱崎委員・照喜名委員  
教職員 : 安井教頭先生  
その他 : 寺井コーディネーター  
欠席者 : 宮谷校長先生

4. 学校長あいさつ（代読：教頭先生）

年末のお忙しい時期にお集まりいただきありがとうございます。寒暖差のある時期となり、体調を壊しやすいときです。健康に注意していきたいと思えます。さて、6月の第1回学校運営協議会では、本校の学校経営方針を中心にご議論をいただきました。「失敗を恐れず、まずはやってみよう！」を合言葉に子どもも教師も互いに笑顔あふれる鴻池小学校にするために、「基礎学力の定着」「学級力の向上」を目指し、自己有用感に基づく自己肯定感の向上に取り組んできました。

5月以降、学校における教育活動はほぼ通常に近い形で実施することができました。特に2学期は、体育大会をはじめ、遠足的行事、音楽会と子どもたちが活躍する場が多くありました。学校行事を通じて、達成感や成就感を味わわせたいと考え、教師も子どもたちと一緒に一生涯懸命取り組んできました。おかげさまですべての行事を成功裏に終えることができました。

本日は、先ほど申し上げました学校行事や全国学力・学習状況調査の結果、児童・教師の学校評価、保護者の評価については11月に実施したところで、現在集約中のため、中間報告となりますが、報告させていただきます。忌憚のないご意見を頂戴し、今後の学校運営に生かしていきたいと思えますので、よろしくお願ひします。

5. 課題

(1) 学校の様子について

(学校だよりに沿って、2学期をふり返り)

- ・ホームページは毎日更新している。情報発信を積極的に行っているの、ぜひホームページをご覧ください。
- ・始業式では、校長先生から子どもたちに大谷翔平選手のお話があった。大谷選手は目標を夢で終わらせないために、プレー以外のところでも一つ一つのことを「続けること」を大切にしているというお話があった。子どもたちには、次の3つを頑張りましょうと話している。①「自分から」行動しよう、②友だちや下級生から必要とされる人になりましょう、③いろいろな学習・行事に「本気」で頑張りましょう
- ・ふれあい清掃は、今年度から「自分たちの学校は自分で綺麗にする」をテーマに5、6年生の子どもたちを中心に行った。暑い中での作業だったが、掃除後、PTAの

みなさんから子どもたちへアイスのプレゼントがあり、頑張ったかいがあったととても喜んでいました。誰かのために頑張ることの大切さを学ぶ良い機会となった。

- 体育大会の練習は、熱中症に注意しながら、体育館での練習から始まり、徐々に運動場に移行していく形で行った。コロナが明けての体育大会だが、コロナ禍のコンパクトな開催方法の良さも取り入れながら、通常開催に近い形で執り行うことを検討し、全学年、表現と学級対抗リレーを行うこととなった。

当日の子どもたちは、自分たちがやってきたことへの達成感に満ちていた。子どもたちの感想には、「これからもみんなと協力する心を忘れず、常に先頭にたつような存在になれたらいいなと思いました（6年生）」といった感想もあり、充実した心に残る体育大会となった。

- 本校では異学年交流に力を入れており、主に1年生と6年生、2年生と4年生、3年生と5年生がペア学年として交流している。特に6年生は色々な学年の子どもたちとつながろうと率先して動いてくれている。タブレットの学習では、1年生の教室に出向き、マンツーマンでやさしく丁寧に使い方を教えてくれている。そのおかげもあり、1年生はミライシードも使いこなしている。
- 全国学力・学習状況調査については、国語・算数の結果も良かったが、児童質問紙の回答結果がとても良かった。「自分にはよいところがある」「人の役に立つ人間になりたい」といった項目の数値が伸びており、自己有用感の高まっている様子がうかがえる。今の6年生は、昨年、ユニクロさんにご協力いただき、服の回収プロジェクト（難民の子どもたちに服を送る）を行った学年である。昨年度の経験もあり、「人の役に立ちたい」という気持ちが人一倍強いのかもかもしれない。ただ、「家で計画的に勉強している」という質問は、数値が10%ほどマイナスとなっており、家庭と家庭学習の連携が必要であると感じている。
- 1年生の子どもたちは、このいけ幼稚園の子どもたちと交流学習を行っている。一緒に活動することで子どもたちの優しい気持ちの醸成にもつながる。来週も幼稚園の音楽会を見学させていただく予定になっている。
- このいけ秋フェスティバルは、今年度は食べ物の販売も復活し、大いに盛り上がった。開催に向けて、鴻池自治協議会、スポーツクラブ21、PTAなど、地域・保護者の諸団体のみなさまにご協力をいただいた。お礼を申し上げる。
- 6年生は天王寺川中学校、東中学校のオープンジュニアハイスクールに参加し、体験授業やクラブ活動の見学を行った。中学校生活は不安な気持ちもあると思うが、少しでもその気持ちを取り除き、笑顔で送り出したい。
- 音楽会については、スムーズにトラブルなく開催できた。2年前の音楽会は合唱なしでボディーパーカッションや手拍子を使って表現したが、今回は子どもたちが一生懸命歌い、リコーダーを吹くことができた。素敵なハーモニーが体育館に響き、心に残る音楽会となった。子どもたちの感想を読んでも、あのような大きな舞台を立つ機会があまりないので、とてもいい経験になったようである。
- 6年生は自分たちで企画したミニ運動会を開催した。体育大会がリレーと表現だけだったということもあり、この運動会では、玉入れ、綱引き、借り物競争などの団体競技を楽しんでやっていた。リレーもクラス対抗、スウェーデンリレーなど様々なものを行い、大いに盛り上がった。

<主な質疑応答 ●：委員 ○：回答>

- 1年生もタブレットを持ち帰り活用しているのか。
- 1年生も持ち帰り活用している。本校では、1年生は少しゆるやかに導入をはじめたが、すでに使いこなしている。子どもは覚えが早い。6年生に教えてもらえたこともうれしかったようだ。ただ、使いこなせるあまり、見てはいけないものを見てしまうということもある。低学年からも情報モラルについてしっかり話していこうと考えている。
- 異学年交流については、小学校での実践が少ないイメージがあったので、積極的にされていることをうれしく思う。年齢の異なる子どもたちの交流は、相互にとって、とても有意義な経験である。これからもどんどん増やしていただきたい。
- 今日も3年生と5年生がドッチボールをしていた。5年生も投げるボールを相手に合わせて気遣っていた。6年生が1年生に向けて屋台をやっているときも、相手の立場に立って「考える・準備する」という姿勢が多く見られた。この「相手の立場に立つ」という気持ちが大切だと考えている。「自分が人の役に立った、また頑張ろう、下の学年の子たちを大切にしよう」と気遣う気持ちが醸成される。また、1年生も交流後、6年生に向けて「ありがとう」のお手紙を書く。1年生は「6年生みたいな人になりたい」という憧れの気持ちを抱き、目標ができる。お互いを思いやる気持ちは、異学年の子どもたちが一緒に経験する機会があるからこそ生まれるものだと思う。今後もそのような機会を大切にしたい。

## (2) 全国学力・学習状況調査の結果について

### 【国語】

県・全国平均を上回った。児童の答えを分析すると、条件をふまえて回答する問題について、複数の資料を読んで理解し、考えをまとめる力に課題が見られた。無回答率は低いため、児童はなんとか頑張っただけで回答しようとしている様子が見える。

### 【算数】

全国平均を上回り、県平均と同じ結果となった。図形が苦手であることが顕著であり、図形の特徴、基本的な内容をもう一度確認する必要がある。また、基本的な公式・形が少し違った形で出題されるとわからなくなってしまうようである。色々なパターンの問題を経験する必要がある。例えば、筆算の順序について、普通に計算すればわかるはずが、文章にされるとわからなくなってしまう。今の算数の問題は、国語の力を必要とする問題が多くになっている。言葉で説明できる力が求められている。授業の中でもそこに力を入れていきたい。

### 【児童質問紙】

自己肯定感に関する調査は、昨年度よりも全体的にアップしている。ただ、家庭学習、読書に関する質問について、数値が低い。読書については、今年度読書量が17%ほど伸びているが、家庭ではなかなかできていないことが課題である。

「国語が好きですか」という質問については、高い数値となっている。この学年は国語が好きな子が多い。昨年からの授業の中で子どもたちが主体的に話し合い、考えることを大切にしてきた結果が出ている。算数については、基礎学力が不十分で

苦手意識があるようである。英語についても、好きという回答が低めの数値となっている。ALT や専科の教員が中心となって、様々な工夫をしながら、子どもたちに働きかけている。今後も子どもたちが楽しく学べるように取り組んでいく。

#### 【学力向上プラン】

- ・教科については、教科横断で指導している成果が出てきている。今後も引き続き取り組んでいきたい。
- ・学級力向上については、子どもたちも「自分たちのクラスは自分たちで見る」という意識を持って取り組んでいる。今後も推進したい。
- ・算数の基礎学力向上のためにも、朝学習の時間に算数に取り組むようにしている。また、学習が苦手な子は放課後に10分居残りし、プラスで学習するようにしている。図形の課題は、学年ごとに習得すべき内容が定められているので、それに沿って徹底して取り組みたい。
- ・国語はすべての教科の基幹科目である。算数では言葉で説明することが求められており、理科でも根拠を説明することが求められる。なぜこう考えたのか、説明すること・話すことを大切にしていきたい。

<主な質疑応答 ●：委員 ○：回答>

- 家庭での読書は、学校の本を借りて読むのか、家の本を読むのか。
- 家庭に本がある家は限られているので、学校で借りた本を読むことが主であると思う。図書室の本だけでなく、高学年になると電子書籍を活用している子もいる。電子書籍で宮沢賢治の作品集を読めるアプリがあり、教育委員会にお願いしてタブレットに追加してもらった。
- 家庭に本を持ち込むイメージが必要なのでは。図書室で本を借りる活動を推進してはどうか。
- 今年度は読書ボランティアさんの活動もあり、貸出図書の数是非常に伸びている。読み聞かせも定期的に実施していただき、子どもたちも喜んで話を聞いている。
- 読み聞かせはどのような形で行われているのか。
- 朝学習の時間に教室に行って読み聞かせをしたり、業間休みに図書室で読み聞かせをしている。体育大会、クリスマスなど、季節・行事に合わせた本をボランティアさんがセレクトし、リピーターの子は本を選ばせてもらったりしている。
- プロジェクターを利用した絵本の読み聞かせはしているのか。プロジェクターを使った読み聞かせは、耳からだけでなく、視覚的にもインパクトがあり面白い。来年自治協議会では、大人向けにプロジェクターを利用した絵本の読み聞かせを実施する予定である。
- 去年はコロナ禍ということもあり、何度かプロジェクターを利用した読み聞かせを実施した。絵を効果的に活用したり、大人数向けに読む聞かせを行う場合は、プロジェクターを利用する形が馴染む。今後も様々な形で読み聞かせを実践したい。
- コロナ禍は国語力が落ちても仕方がない状況だった。図書は借りられない、図書室にも行かない、授業も削減・・・と、そのデメリットが中高生には出てきていると感じる。先ほど国語力がアップしているというお話があったが、学校図書の活動が活発になってきていることが大きいのではないかと。授業として、図書室に行く機会が増えれば良いと思う。

### (3) 学校評価の中間報告について

- ・読書に親しんでいるかについては、児童（89.9%）と家庭（38%）で数値に大きな差が出ている。家庭で子どもたちが読書をしている様子が少ないことが影響している。
- ・教員の評価については、業務改善、働き方ともに昨年度と同等以上の結果が出ている。先生方には自分たちが働き続けるためにはどうあるべきかを意識するようお願いしている。毎日、各先生が今日何時に帰るかをマグネットを置いて明示することになっているが、半数以上が18時以内にマグネットを置いている。帰る時間までにどうやって業務をマネジメントするかが重要である。これまで職員朝礼が週2回あったが、それをなくし、急ぎのものは職員室前方のホワイトボードで共有、急がなくていいものはネットの共有の掲示板に掲載する形にした。また、夕方に行う職員連絡会も月1回となっており、会議のスリム化を推進している。

<主な質疑応答 ●：委員 ○：回答>

- 働き方改革を行っているということだが、持ち帰りの仕事は増えていないのか。
- 持ち帰っている教員は、ほとんどいないと思う。以前に比べ、宿題の出し方を工夫している。漢字ノートを2冊用意し、交代で使用・返却する形をとったり、電子（タブレット）で宿題を出したりしている。ペーパーで出すものとタブレットで出すもののバランスを取りながら進めている。
- タブレットの宿題も学校で確認しているのか。中学校ではタブレットの宿題は提出期限が明確に定められており、それに遅れると内申に響く。小学校でも提出期限を設け、宿題を出しているのか。
- タブレットの宿題は学校で確認していると思う。小学校では、少し先のスケジュールを考えて取り組むような宿題は、高学年の委員会活動ぐらいである。基本的に次の日に提出するものが多い。
- 低学年の間は書くことは大事だと思う。自分で書くという活動を大切にしてほしい。
- ICTは便利だが、書くことが何よりも重要だと考えている。PTAさんが実施してくださる漢字検定の受検者も増えており、子どもたちは自分で書いて鍛錬することに前向きである。人生に関わるような試験は、いまだにすべてアナログである。アナログ、デジタルのバランスを見ながら、うまく両方を融合し効果的な学習を進めたい。
- 子どもの学習は、家庭学習が基本だと思う。家庭学習は親がどこまで子どもにかかわりを持つかどうかだ。学力向上のために家庭学習をどのように進めたらいいか課題である。
- 家庭学習については、ご家庭によって意識に差がある。宿題をもっと出してほしい、自主学習も宿題に加えてほしいという保護者もいる。保護者のみなさんの色々なご意見を受け、今年度は「家庭学習の手引き」というものを発行した。学年ごとに身に付けたい力、また家庭学習の進め方を明記し、保護者には家庭学習を進めるにあたっての目安として配布した。
- 家庭の環境で学習の習熟度に差が出ているか。
- 家庭環境で差があるというわけではない。学習する習慣があるかどうかである。習い事で土日忙しい子が多い。バランスを取りながら、学習時間をきちんと確保することが大切である。
- 放課後学習はどのように実施されているのか。

- 月に2回水曜日の放課後に実施している。放課後学習の担当教員2名が国語・算数を中心に指導している。現在38名が参加しており、年々希望者が増えている。
- 土曜スクールでも学習会を行っているが、ほとんど集まらない。自主的に子どもたちに参加してほしいというのは難しいのかもしれない。
- 現在、学習に少し不安がある子には担任から声がけし、毎日5分から10分のプチ放課後学習を行っている。中学校の先生からは4年生までの四則計算、特に九九だけはできるようにしてほしいと言われている。低学年の子どもたちには、「算数は積み木だから、今やっていることが必ず次につながるから」と話し、取り組ませている。本校の課題である基礎学力をしっかり定着させることが何よりも大切である。
- プチ放課後学習を行っているとのことだが、先生方の負担は増えていないのか。
- 5分から10分ぐらいなので、負担にはなっていない。良い習慣になっている。
- 家で自分から宿題をする子は優秀な子。それが家庭の環境もありできない子がいる。親が10分、20分、子どもを見る時間があれば変わるのかなと思うがそれも難しい。永遠の課題である。
- 習慣づけをどうするかについては、保護者の声掛けが重要ではあるが、声掛けが難しいご家庭もある。そこは学校と家庭が協力し、進めていく必要がある。
- 高学年になると宿題の中にわからないものがあったりする。そのときは、「次の日、ここを先生に聞いてみよう」と伝えることも重要では。わからないものは質問したらいい、問題にぶつかったときは色んな方法を試みることが大事だということを伝えることにもなる。
- 家庭学習の進め方については、今日お話しいただいた内容を含め、エッセンスをもっと増やして提示していきたい

## 6. 閉会あいさつ（阪田会長より）

子どもたちをどのように応援してあげられるかは会議で話しているだけでは不十分である。ぜひ学校からも我々地域のメンバーに「こんなお手伝いできませんか、お願いしてもいいですか」とお声掛けいただきたい。以前参加した研修でも、他校で先生方から出た要望について「これはできる、これはできない」と選別しながら、協力できることを積極的に行っているというお話があった。我々もそういったことに今後取り組んでいけたらと思う。